

詐欺脆弱性に対する絵画の影響

The Impact of a Painting on Vulnerability to Fraud

佐々木 美加[†]

Mika Sasaki

[†] 明治大学

Meiji University

mikasa@meiji.ac.jp

概要

本研究では、中世の詐欺に関する絵画が、現代の詐欺に対する危機意識を高めることを実証的に明らかにする。実験では、ラ・トゥールの「いかさま師」の画像を絵画刺激とし、呈示後の感情と詐欺への危機意識が測定された。その結果、絵画呈示条件では、恐怖感が喚起され、詐欺脆弱性が改善されることが示された。本研究結果から、時代も民族も風俗も超えて、詐欺への危機意識を有意に高める効果が絵画刺激にありうることが示唆された。

キーワード：詐欺脆弱性(vulnerability to fraud), 絵画 (paintings), 感情(feeling)

1. はじめに

(1) 絵画の中の物語の影響

原始・古代の絵画の物語 本研究は、古来から人々に影響を与えてきた絵画の中の物語の重要性に着目し、絵画の物語が現代の人々に与える影響を心理学的に明らかにしていくものである。まず最古の絵画とされているフランク・カンタブリア美術に代表されるラスコー洞窟・アルタミラ洞窟の壁画の物語を思い出してほしい。壁画には、狩猟生活が残されていて、それを見ることで、我々は人間の原始生活の物語を感じ、創造することが出来る。時代が下った古代エジプトの神殿や王墓の壁画には、農耕やワイン製作の場面や王や貴族・聖職者らの生活、多神教の世界や、戦争の場面も描かれている。これらを見れば、後世の時代に生まれたわれわれも、当時の物語を垣間見ることが出来る。つまり原始・古代の絵画の物語は、文字が発明されていない、あるいは普及していない時代の社会生活や風俗を現代のわれわれに伝えてくれる貴重な記録の役目を今なお果たしている。

文字文明以降の絵画の物語 時代が下り、文字文明が発達して以降は、われわれは当時の生活や当時の人々の社会制度、思考について文字によって知ることが出来るようになった。それでもなお、調度、服装、食事など風俗は、絵に描かれた物語から、当

時の状況を想像するのに有用だ。ギリシャ美術やローマン・コピーのフレスコ壁画においても、同様の絵画の機能が見られる。中世の西洋美術では、キリスト教を中心に、宗教画が多く描かれ、教会の壁画や聖書の写本の挿絵によって聖書の物語や世界観が表現されるようになる。当時の識字率が低い社会において、絵画の影響力は大きかったと思われる。さらにルネサンス以降、人間を表現する手段として絵画は説得力を増し、絶対王政時代の宮廷画の発達とともに、画家の地位や育成機関も発達し、絵画の表現力が発展し、人々の感情に訴える説得力も増していく。

一方、日本でも、朝廷文化や武家社会の中で、中国の南画等の影響を受けた日本画が発達した。これとは別に、奈良時代から鎌倉時代にかけて、絵巻物が発達し、仏教絵巻、軍記絵巻、王朝文学絵巻、社縁起絵巻、等が作られた。絵巻物は、絵画によって物語が表現し、マンガの原型とも言われている。絵巻物では、時間軸のある絵画をもって物語を表現することで、より想像力を掻き立てる感情に訴える絵画になったといえるだろう。

近世以降の絵画は、印刷技術の発達も相まって、日本では町人文化を反映した民衆の絵画、浮世絵が広まった。現代美術では、日本美術は西洋美術の影響を強く受けていく。西洋美術の方は、神話、歴史、寓意だけでなく風景や風俗画が描かれるようになり、20世紀には作家による様々な表現方法の開発が進む。その過程で絵画は作家の世界観や価値観に基づく物語になり、自己表現の側面が強くなったと思われる。たとえばピカソの『ゲルニカ』や、岡本太郎の『明日への神話』は、作家の反戦に対する感情が強く表れ、見る側に作家の主張を伝え感動を呼ぶ。

何故いま、絵画の物語が重要か そうした絵画は何故、現代の社会の中で重要なのか。その点について、現代の絵画の、感情に訴えることで、見る側に伝えるという特質に焦点を当てて論じる。

(2) 感情に訴える絵画の影響 絵画は、文字とは異なり、論理性に基づいて主張をするのではなく、感情を表現して見る側の感情に訴える部分が多い。理屈や論理ではなく、感情が強い説得力を生じることがある。たとえば寓意画、ことに宗教的寓意画の中には、恐怖を喚起して人々に戒めや自重を促すイメージを生じる作品は少なくない。山本(2015)は、菅原道真の左遷への憤怒を描いた束帯天神像や北野天神縁起絵巻を取り上げ、恐怖を喚起する絵と信仰の結びつきを示唆している。また、加須屋(2003)は、仏教説話画において、生老病死の苦しみを伝え、生きることの本質にかかわる知を表象していると論じている。また、中野(2007)は、恐怖をイメージさせる西洋画を多数取り上げている。その中に、詐欺に遭う若者の情景から恐怖を感じさせる絵として、ラ・トゥール作の「クラブのカードを持ついかさま師」を挙げている(図1参照)。



図1. クラブのカードを持ついかさま師

(3) 恐怖感情と説得の心理学

恐怖感情は、相手を説得する場面で、効果的に機能することが確認され、恐怖コミュニケーションと呼ばれている(深田, 1973; 1975)。昨今の恐怖コミュニケーションの説得への応用例としては、諸外国のタバコのパッケージに肺がんの写真が掲載され、喫煙による健康被害への恐怖から喫煙が抑制されている例がある。また、日本の運転免許証更新の安全講習で事故映像や事故後の社会的困難や精神的苦痛をまとめたドラマが呈示され、事故の恐怖感や危機感を高めて事故防止を啓発している。文字で「危険です」と説明するよりも、実例で恐怖感を与える方が、危機意識を高めるのには効果的だ。それと同様に、絵画によって実例を示す場合も、見た人はその物語をシミュレートし、恐怖感を経験して、態度を

改めると考えられる。そうした絵画の説得効果は、心理的リアクタンスも生じにくいと思われる。心理的リアクタンスは、自らが意思決定を行う自由を侵害されると感じると、説得に抵抗しようとするものである(Brehm, 1966)。従って、絵を見て自分の態度を変更するのは、誰かに強制されたわけではないので、心理的リアクタンスは生じにくいと考えられる。

(4) 現代の社会問題と絵画の影響力

現代の社会問題の一つである特殊詐欺では、年間300億円以上の被害が生じている。こうした特殊詐欺に高齢者が被害者となる過程には、説得の心理学的メカニズムが関与していると考えられている(福原, 2017)。これらの特殊詐欺に対し、金融機関において警察庁と連携して高齢者への詐欺予防の声掛けや予防的な警察への通報などが行われてきた。しかし、金融機関で、被害防止のための振り込み中止をするよう声をかけられた高齢者から、反発を招くケースが多い(木村・西田, 2018)。これは声をかけられた高齢者は金融行動の自由が奪われると感じ、高齢者に心理的リアクタンスが生じているためと考えられる。人が働きかけるのではなく、詐欺の恐怖が喚起される絵画を見るのであれば、意思決定の自由を奪われる脅威を感じず、心理的リアクタンスを生じることはないと考えられる。そこで、本研究では、絵画を刺激として感じられた恐怖から、詐欺に対する危機意識が高められるかどうかを実験的に明らかにする。

2. 実験

(1) 詐欺についての絵画の詐欺脆弱性への影響

本研究では、絵画によって特殊詐欺に対する危機意識が高められることを実験的に検討する。実験に用いる絵画作品として、ラ・トゥールの作品『クラブのカードを持ついかさま師』(図1)を選定する。

この作品は、美術教育研究において、実験参加児童の詐欺知覚が確認されている(福本・金子, 1997, 中田, 2018)。そのため、この作品は、金融詐欺への恐怖やリスク認知を喚起する刺激と考えられる。

このように詐欺の場面の絵画から恐怖が生じると、詐欺に対する危機感が高まり、「自分は詐欺の被害に遭わないだろう」という詐欺脆弱性は、弱められると考えられる。従って、以下の仮説が導入される。

【仮説 1】 絵画刺激により生じた恐怖から詐欺脆弱性は弱まる

(2) **金融行動と危険回避研究** 一方、特殊詐欺は、被害者自身が振り込む・送金するなどの金融行動に誘導されるという特徴がある。金融行動の研究では、普段からリスクマネジメントを高いレベルで行っていれば、被害への備えが高まることがわかっている(梯上ら, 2003)。これらの研究を踏まえると、以下の仮説が導入される。

【仮説 2】
金融のリスクマネジメントが高度であれば、詐欺脆弱性は弱まる

(3) **個人特性と金融行動** 個人金融の研究において、金融への知識が豊富であると自信過剰になり、危険金融行動を促進することが知られている(小川・川村・本西・森, 2018)。従って、以下の仮説が立てられる。

【仮説 3】
金融の知識が豊富だと、詐欺脆弱性が高まる

以上の仮説 1～仮説 3 は、図 2 に示すような心理過程のモデル図が想定される。図中の実線は正の影響を示し、破線は負の影響を示している。

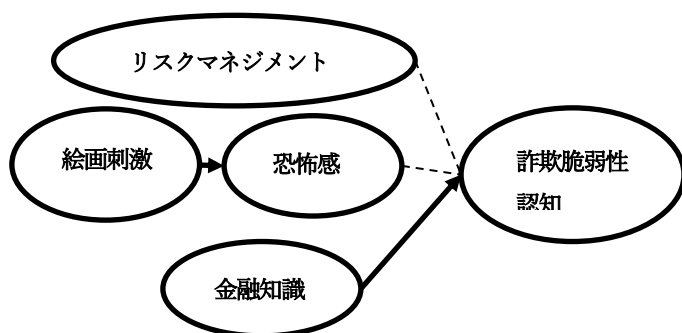


図 2 金融脆弱性に至る心理過程モデル

3. 方法

(1) 手続き

調査は、インターネット調査会社 (マイボイスコム(株)) を通して、調査会社に登録者に対して行われた。参加者は社会人 556 名 (内女性 288 名、年齢 30 歳～84 歳($Mean=54.67$ 歳, $SD=13.59$)) で、30 代～40 代、50 代～60 代、70 代～80 代を均等割付で参加者を配置した。参加者は、回答の前に研究の趣旨の説明を読み、研究の趣旨を理解したこと、途中で回答をやめることができることを理解した場合、回答にチェックを行い、調査内容の回答に進んだ。なお、調査内容については、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構の研究倫理審査に合格した上で行っている。

(2) 要因計画

実験要因は、絵画呈示の有無であった。要因の操作は、(1)のインターネット調査の中で行った。絵画あり条件では、「しばらく休憩して下さい」という文字が出た後、20 秒間ラ・トゥールの「いかさま師」の絵が呈示された。絵画無し条件では、「しばらく休憩して下さい」という文字の後、空白画面が 20 秒続いた。その後、両条件の参加者は、感情測定項目、パーソナリティ測定項目、リスクマネジメント項目、金融知識項目、詐欺リスク項目、詐欺脆弱性認知項目に回答を求められた。全ての項目に回答した場合のみ、データが送信される仕組みになっていた。

(3) 質問項目

感情測定 絵画刺激の呈示後の感情測定項目 4 項目。小川ら(2000)の一般的感情の中の否定的感情のうち 2 項目と、恐怖と不安を加えたもの)であった(「恐ろしいと感じる」「脅威を感じる」「緊張を感じる」「不安を感じる」)、7 点尺度 (全くそう思わない～非常にそう思う) で測定された。

詐欺脆弱性 ①詐欺脆弱性認知 (大工ら, 2016) の項目を 1 人称に改変した 4 項目(「わたしが詐欺に遭うことはないだろう」「私なら詐欺だと見抜けるであろう」「わたしも詐欺被害を受けるだろう(逆転項目)」「私なら詐欺の勧誘に適切に対処できる(逆転項目)」であった。7 点尺度 (全くそう思わない～非常にそう思う) で測定された。

リスクマネジメント 高坂(2018)の経済的リスクマネジメント因子のうち、高齢者と若年者に共通するリスクマネジメント項目 5 項目であった(「子育て

てや老後の生活などに、どのくらいのお金が必要なのか知らない(逆転項目)」「自分が今後安定し、かつ充実した生活を送るためには、どのくらいのお金が必要なのかわかっている」「生活が困窮した時に、どのように経済的な支援を求めれば良いか知っている」など)。7点尺度(全くそう思わない～非常にそう思う)で測定された。

金融知識 北村・中嶋(2016)の「金融に関する問題」を用いた。質問1～質問5までで、各設問正解に1点が与えられた。これら5項目の合計点を金融知識の得点とした。

4. 結果

(1) 絵画の感情喚起効果

絵画の感情喚起効果を検討するため、絵画ありなしを独立変数とし、感情測定項目 ($\alpha=.876$) を従属変数として分散分析を行った。その結果、絵画あり条件の方が絵画無し条件よりも恐怖感情が強く喚起されていた ($M=4.02$ and 3.83 , $F(1, 554)=5.47$, $p<.05$)。

また、絵画の有無を独立変数とし、詐欺脆弱性認知を従属変数として分散分析を行った結果、絵画あり条件の方が、絵画無し条件よりも詐欺脆弱性認知が低くなっていた ($M=4.00$ and 4.21 , $F(1, 554)=6.05$, $p<.05$)。従って、仮説1は支持された。

(2) 金融脆弱性認知に至る心理過程

図2に示した詐欺脆弱性に対して、参加者の恐怖感情、参加者のリスクマネジメント、参加者の金融知識を説明変数、詐欺脆弱性認知を目的変数として、重回帰分析を行った。その結果、図3に示すように、恐怖感情が詐欺脆弱性を有意に弱めており ($\beta = -.19$, $p=.000$, $R^2=.12$, $p=.000$)、仮説1は支持された(表1参照)。一方、リスクマネジメントは詐欺脆弱性を強めており ($\beta=.23$, $p=.000$)、仮説2と逆の結果で、過去の研究結果に反する結果となった。金融知識は、詐欺脆弱性認知に対して有意な影響を与えておらず、仮説3は支持されなかった。表2に示すように、恐怖感情とリスクマネジメントの相関は有意な弱い負の相関が見られた ($r=-.18$, $p<.00$)。

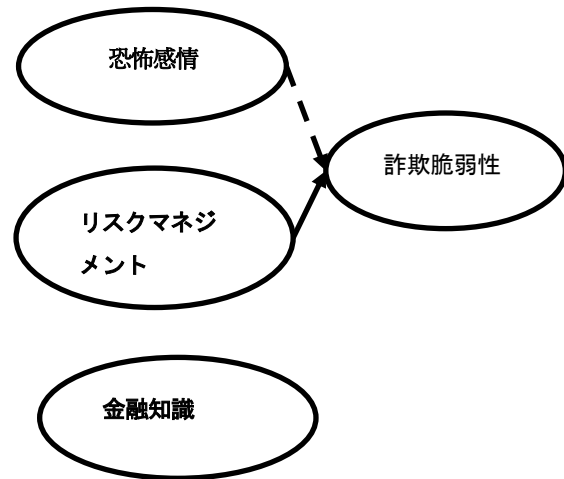


図3 詐欺脆弱性認知に対する恐怖感情、リスクマネジメント、金融知識の影響。(図中の実線は正の影響、破線は負の影響を表す。)

表1. 詐欺脆弱性認知についての重回帰分析表

	詐欺脆弱性認知
恐怖感情	-.189***
リスクマネジメント	.228***
金融知識	-.066
R^2	.115
F	24.97***

表2. 変数間の相関分析表

	詐欺脆弱性認知	恐怖感情	リスクマネジメント
詐欺脆弱性	1		
恐怖感情	-.236**	1	
リスクマネジメント	.284**	-.186**	1
金融知識	.151**	-.073	.313**

4. 考察

今回の実験では、絵画から感じられる恐怖感情が、詐欺脆弱性を弱め、詐欺への対策になりうることを示唆された。一方、絵画の影響と直接関連しないが、リスクマネジメントの影響については、これまでの研究結果とは逆の方向で、詐欺脆弱性認知を強めてしまうという結果も得られた。これは、個人金融の研究において、リスクマネジメントがうまくできていると安心して自信過剰になり、危険金融行動を促進するからかもしれない(小川・川村・本西・森, 2018)。

本研究結果からは、絵画には、アートとしての価値だけでなく、絵画の中での詐欺場面が、現実の場面での詐欺の恐ろしさや危機意識を高め、人々が被害に遭わないように啓発する効果が現代でも十分あるといえるだろう。

ただし、絵画から詐欺を知覚するかどうかを直接測定していないため、今後操作性についてもより精度を高めていく必要があるだろう。

本研究は、絵画の中の物語が、きわめて現代的な問題である特殊詐欺への対策という場面においても、効果を生じる可能性が示唆された。これは、古くから絵画で用いられてきた寓意画から与えられる教訓と同様に、現代でも絵画の物語が影響力を持ちうることを示すものと言えるだろう。

しかも、今回用いた絵画刺激は、中世の西洋の画家ラ・トゥールの作品であった。これは、洋の東西を問わず、時代も超越して、絵画が人の行動に影響を与え続けることが可能だということを示したと考えられる。本研究は、絵画の影響力のごく一部を実証的に示したに過ぎないが、絵画の社会的影響力が、現代の社会でも役立てられていくように、更に絵画の心理学的な解明を行っていきたい。

5. 参考文献

- [1] Brehm, J. W. (1966). *A theory of psychological reactance*. Academic Press. New York.
- [2] 大工泰裕, 阿形亜子, 釘原直樹. (2016). 被害者への共感的観察が脆弱性認知に及ぼす影響: 詐欺被害事例を用いた検討. *対人社会心理学研究*, Vol. 16, pp. 21-26.

- [3] 深田博己. (1973). 恐怖喚起の程度, 性, 不安傾向が態度変容. *実験社会心理学研究*, Vol. 13, No. 1, pp. 40-54.
- [4] 深田博己. (1975). 恐怖喚起と説得. *実験社会心理学研究*, Vol. 15, No. 1, pp. 12-24.
- [5] 福原敏恭(2017). 行動経済学を応用した消費者詐欺被害の予防に関する一考察. *金融広報中央委員会*
- [6] 加須屋誠(2001). 仏教説話画の構造と機能. *中央公論美術出版*
- [7] 木村真利子・西田公昭(2018). 金融機関における特殊詐欺対策に関する心理学的検討(3) *日本社会心理学会第59回大会発表論文集*, p. 290.
- [8] 北村智紀, 中嶋邦夫. (2016). 終身年金バイアスと公的年金満足度・金融資産保有への態度. *日本経済研究*, Vol. 73, pp. 1-30.
- [9] 高坂康雅. (2018). 大学生における心理的自立と経済的自立・社会観との関連. *和光大学現代人間学部紀要*, Vol. 11, pp. 123-134.
- [10] 中野京子(2007). 怖い絵. *朝日出版社*
- [11] 中田茅里(2018). 個人的認知スタイルから見る鑑賞教育の効果—熟慮型・衝動型の観点から— *2018年度女子美術大学 学生作品集*, p. 15.
- [12] 小川時洋, 門地里絵, 菊谷麻美, 鈴木直人. (2000). 一般感情尺度の作成. *心理学研究*, Vol. 71, No. 3, pp. 241-246.
- [13] 山本陽子(2015). *図像学入門*. 勉誠出版

6. 脚注

- [注 1] 本研究で行った実験は、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構の2018年度公募研究費により行われ、当該機構の倫理審査に合格した上でやっている。
- [注 2] 本研究は、科学研究費補助金、基盤研究(C)(課題番号19K03213, 研究代表者: 佐々木美加)を受けて継続している。